

最近、ブータンという国がいま日本中から注目を集め、テレビでもよく特集が組まれています。国交樹立 25 周年の節目ということで、この 11 月には、新婚間もないブータン国王ご夫妻が来日されました。国王ご夫妻は、原発事故が発生した福島県にまで訪れ、祈りを捧げてくださったことは記憶に新しいところです。

ブータンは、日本の九州地方ぐらいの小さな面積に、70 万人というから島根県ほどの人々が暮らすヒマラヤ山中にある国です。

経済的には世界でもっとも貧しい国に入りますが、日本が大震災に見舞われたとき、世界のどの国よりも早く経済的な援助、しかも日本円で 8 千万円もの義捐金を送ってくれたのです。私の恩師と友人たちが、今年そのブータンを訪ねました。そのとき、現地で購入求めたミネラルウォーターには、この販売代金の一部は大震災に見舞われた日本への義捐金に当てられます、と書かれてあったそうです。

また、ブータンは、お金や物の豊かさを表す GNP（国民総生産）に代わって GNH（国民総幸福量）という、新しい物差しを提案したことで注目されています。お金や物ではなく、しかも間接的にではなく、人々が幸せに生きているという実感を、心の幸せ感、教育についての満足感など 70 項目以上に渡り、2 年に一度、8000 人、全人口の 1%（日本なら 1 千万人）から 5 時間以上にわたり聞き取りを行って幸福感がどれくらい深まったかを測るそうです。

これをいまの国王のお父さんが世界に提案したのは 1972 年のことです。日本は経済成長の真っ只中で、お金や物への崇拜が世界中に蔓延していた時代です。そうしたなかで、若干 21 歳、君たちとほとんど変わらない若い国王が国民総幸福量を提案したというのですから驚きです。

ブータン国王が日本の国会で行った演説をプリントしてお配りしています。先日、若い友人たちと意見交換したことも紹介しつつ、この内容をみんなで読んでみましょう。

「皆様が生活を再建し復興に向け歩まれるなかで、我々ブータン人は皆様とともにあります。我々の物質的支援はつましいものですが、我々の友情、連帯、思いやりは心からの真実味のあるものです。ご列席の皆様、我々ブータンに暮らす者は常に日本国民を親愛なる兄弟・姉妹であると考えてまいりました。両国民を結びつけるものは家族、誠実さ。そして名誉を守り個人の希望よりも地域社会や国家の望みを優先し、また自己よりも公益を高く位置づける強い気持ちなどであります」と述べています。

「このグローバル化した世界において、日本は技術と確信の力、勤勉さと責任、強固な伝統的価値における模範であり、これまで以上にリーダーにふさわしいのです。世界は常に日本のことを大変な名誉と誇り、そして規律を重んじる国民、歴史に裏打ちされた誇り高き伝統を持つ国民、不屈の精神、断固たる決意、そして秀でることへ願望を持って何事にも取り組む国民。知行合一、兄弟愛や友人との揺るぎない強さと気丈さを併せ持つ国民であると認識してまいりました。そして、これは神話ではなく現実であると謹んで申しあげたいと思います」と語っています。

私の友人は、これまで、欧米諸国が、「顔が見えない」「NO と言えない」などといった言葉で批判して骨抜きにしてきた日本人の特質の真の輝きを私たちの目の前に示してくれている、と語っていました。

またある友人は、自分の祖先たちが創ってきた国に対する限りない賞讃の言葉を聴いて、現実にはいろいろ問題もあるけど、日本のあるべき本当の姿を大きな鏡に映して私たちに見せてくれた。涙が出たと言っていました。

「皆様、日本および日本国民は素晴らしい資質を示されました。他の国であれば国家を打ち砕き、無秩序、大混乱、そして悲嘆をもたらしたであろう事態に、日本国民の皆様は最悪の状況下でさえ静かな尊厳、自信、規律、心の強さを持って対処されました。文化、伝統および価値にしっかりと根付いたこのような卓越した資質の組み合わせは、我々の現代の世界で見出すことはほぼ不可能です。すべての国がそうありたいと切望しますが、これは日本人特有の特性であり、不可分の要素です。

このような価値観や資質が、昨日生まれたものではなく、何世紀もの歴史から生まれしてきたものなのです。それは数年数十年で失われることはありません。そうした力を備えた日本には、非常に素晴らしい未来が待っていることでしょう。この力を通じて日本はあらゆる逆境から繰り返し立ち直り、世界で最も成功した国のひとつとして地位を築いてきました。さらに注目に値すべきは、日本がためらうことなく世界中の人々と自国の成功を常に分かち合ってきたということです」

何と言う私たちへの励ましの言葉でしょうか。私たちは、日本に住むものとして、このブータン国王の言葉をありがたくかみしめ、この生き方を堅く守って、誇りをもって新しい年を迎えたいと思います。

いま3年生は、最後の追い込みに向けて懸命な努力を重ねています。必ず努力は報われます。そして受験は団体戦です。すでに進路が決まった生徒も最後まで緊張感を切らさず、絆を大事にして一緒に励んでください。

そして2年生も、選択授業の決定を契機に、勉強にも一段と本気度が増しています。この流れに一人残らず乗るのが一番上手で楽な方法です。そうすれば流れはさらに加速していくはずです。

1年生の諸君。もうすぐ後輩の1年生が入ってくるのに、正直言うと3年生、2年生に負けている。中だるみしている奴が少なからずいる。でも中だるみに気づいて、冬休みの補習補講などで力を注ぐ生徒が増えていると聞いています。みんなで流れを変えて欲しい。

こうした中だからこそ、ブータン国王の言葉を通して知ることができた私たちの姿を、あらためて確認する必要があると考えたのです。これを忘れて、どこかの御曹司のように、飛行機で塾通いして名だたる大学に入りながら数十億円のお金をカジノに注ぎこむような生き方をとるなら、勉強しても意味はない。その会社で、懸命に働く社員はどくなるんだ、震災からの復興に全力で戦っている人に合わせる顔があるのか、との怒りでいっぱいです。

同時に、どんなに高貴な魂をもっていても、どんなに世のため人のために尽くそうと思っても、自分自身の資質能力を磨かなければ、役には立たないことも肝に銘じておく必要があります。

昨日、東京理科大の藤嶋昭学長さんは大切なことをいくつも教えてくださいました。常に身の回りに関心を高く持ち続けよう。ピラミッドのように広い土台を作ろう。基礎は教科書だ。そこに書かれてあることをしっかり学ぼう。素晴らしい先生にお話を伺えて幸せでした。

お帰りになった直後、2年生の女性が2人、「藤島先生まだいらっしゃいますか」と校長室に訪ねてきました。「酸化チタンをお皿に塗ったら、汚れがつかず衛生的なんじゃないかな」という質問はお礼状に添えて必ず届けるね。また卓球部のある男子生徒は、俺は絶対に東京理科大に行く決意を聞かせてくれました。なお、図書館の池上先生が、頂戴した本を並べて藤島先生・東京理科大コーナーを作ってくださいました。ぜひ立ち寄ってみてください。

この冬休みは、一人ひとりの人生を左右する転機にしてください。有意義に使い、希望に満ちた新年を迎えてください。期待しています。

以上